

地域で生活習慣病予防

医療介護の横連携大切

会演 三木氏が講演
NW協研修
三木氏が講演

「だ」と締めくくった。
三木氏のほか、八尾市立病院（大坂府）の小枝伸行事務局次長が「八尾市立病院における地域医療連携システムの現状と課題」を講演した。

NPO法人「北海道医療連携ネットワーク協議会」（理事長・宝金清博北大総長）は、ASCD（動脈硬化性疾患）予防推進プログラム多職種連携の強化研修会を札幌市で開催した。みきファシリテーター（東区）の三木敏嗣院長が講演

活用し、アプリ版開発もした。

「だ」と締めくくった。
三木氏のほか、八尾市立病院（大坂府）の小枝伸行事務局次長が「八尾市立病院における地域医療連携システムの現状と課題」を講演した。

札幌東区支部の取り組みを紹介し、生活習慣病の早期介入から各ステージに応じた連続性があるシステムを地域で構築する必要性を訴えた。

この日の研修会はIC T活用の観点から医療連携を学ぶため、東区で内科・小児科の診療所を運営する三木氏が「さつばろ北部地域の生活習慣病に対する予防の周知とその後への対応について」と題して講演。まず札幌市国保保健事業プラン（18年度）を参照し、「健診結果から受診の必要なが治療につながついていない」のが課題だと強調

また、地域で健康寿命を延伸するための取り組みに当たっては、ガラス拭きに例えて「行政の施策は縦のみであり、地域の医療介護従事者の横連携が大切」と指摘。東区への話し合いで、歩行減塩、健診（検診）受診を促す「東区まるごと健康宣言」を2年がかりでつくり上げたという。

同支部が目指す医療体制は「地域を一つの大きな病院として機能させた

同協議会は「あんしん連携ノート」などの地域連携クリティカルパスを活用し、切れ目ない医療提供体制を構築する活動を行っている。ASCD予防推進プログラムは23年度の重点事業の一つで、患者個々に異なるASCD危険因子の管理目標達成率の向上へ向けて、薬剤師を含む医療者と患者が目標を共有するツールとして同法人の「あんしんお薬手帳」を



生活習慣病予防において地域で情報共有が重要で、あんしんお薬手帳の有用性を訴えた三木敏嗣氏

同協議会が進めるあんしんお薬手帳のICT化へ期待を示すとともに、「生活習慣病の早期介入から、それぞれのステージに応じた連続性あるシステムが構築され、地域の医療介護従事者で情報が共有されることが大切